



Truth ~真実~

第 0 2 号

2 0 1 9 年 1 0 月 3 日 発 行

発 行 責 任 者 岡 本 洸 太

編 集 者 教 宣 部

第 1 7 回 定 期 委 員 会

成 功 裡 に 終 了 ！ ！

第 1 7 回 定 期 委 員 会 ス ロ ー ガ ン

1. 新生JR東労組運動の破壊を許さない！！一人の青年部員も置き去りにしない青年部組織の再建に向けて、「青年部の必要性」を明確にする議論を全青年部員でつくり出そう！！
1. 「いのち」を絶対的価値基軸に、「若者が将来に希望を持てる」施策を実現するため、施策に対する運動・たたかいを青年部からつくり出そう！
1. 憲法改悪反対！あらゆる戦争政策に反対し、平和で安心して暮らせる社会の実現に向けて行動しよう！



労働組合の必要性について

入社1年目で沖縄研修に参加しました。その時に感じたのが、「食べられる事の大切さ」「生きていられる事の大切さ」でした。自由にも生きていけない。それが戦争なんだと実感しました。戦争というものは、一部の利益を求める資本家や国家を引き起こしていくというものを学んできました。労働者は、戦争になれば駆り出され、仕事をしなければ会社からは虐げられ、立場が弱いという事を自覚するようになりました。人間らしく生きられる為にはどうすれば良いのかを考え、自分にはシールズや山本太郎さんのような影響力もないので、労働組合で小さな力を大きく見せることが必要だと感じています。東労組に残っています。鉄道労働者は戦争の加担者になる事が決められているので、平和を真剣に考えているのが、東労組だと思っています。

青年部長あいさつ

(要旨)

青年部長 岡本 洸太



律等に定められた協定締結・意見聴取等のみで、それ以外の事項は協議や交渉もできません。意見はできるけど議事録は結べません。そのように感じます。口約束でしかないのです。こういった法案を労働者側が考えてしまっているという事が非常に問題だと感じます。労働組合の必要性が失われています。そういった情勢だからこそ東労組の組織強化・拡大が求められています。

現在の組織状況について

しかし、現実はそのようになっていません。未だに12地本が統一されていません。組合員からは「まだやってるのか」「上のゴタゴタはやめてくれ」「本部がなんとかしてくれ」という声が出されています。ですが、ゴタゴタさせているのは、東京・水戸・八王子地本の一部指導者という事です。私も中央常任委員会に参加して、一年半以上にわたり議論してきました。東京・水戸・八王子の青年部長から出される言葉は「地本として」「親が」といった親の従属物へとなりさがっている意見ばかりで、その場にいる本人の本音は出てきません。労働組合です。当然で、意見があることは当然です。主張が違っても大丈夫です。主張が違っても大丈夫です。

けないから東労組では、大会で決まったことは守つていく。それを組合民主主義と呼んでいます。決まった方針を認めることあるごとに「受け入れられないかやらない」「認識が一致しないから」といって独自の方針を掲げてきたのは東京・水戸・八王子の一部指導者であり、青年部も同じです。決めた約束事を守らない。勝手に方針を出してしまつて組織として成り立ちません。私の目的は東労組の強化・拡大です。しかし、東京・水戸・八王子地本の一部指導者の目的は違います。目的が違う人たちは一緒にできませんか？ 18春闘以降の反省をしっかりと、やり直すというのであれば望みはあると思います。今のところできないという事は再加入しづらいという青年部員からの声を聞いています。私たちの運動の邪魔をさせています。真実の目というホームページができました。こういった組織破壊は断じて許しません。

最後に、今定期委員会は、質疑の時間をテーマトーク・相互討論の時間としています。全員からの発言・意見を出してもらいたいと思います。青年部らしく自由闊達な意見と、皆さんの真摯な討論をお願いいたします。挨拶とさせていただきます。

問題提起・主な発言内容(要旨)

第17回定期委員会では、委員席・傍聴席の区切りを明確にした上で、テーブルを四角状に配置し座談会形式としました。また質疑の時間については、業務課題（営業・工務・検修・乗務員）について問題提起をしたのちに、自由に意見や感想、疑問等を出し合える場としました。



系統別問題提起

- ①営業職場（駅執行体制の再構築・横浜支社管内で発生した資格を持たない社員が運転取扱業務に従事した事象）
- ②工務職場（軌道材料モニタリング装置における課題・保線職場におけるメンテナンス体制の最適化）
- ③検修職場（検修職場の将来を見据えた人材育成及び技術継承に関する団体交渉・在来線電車の保全体系見直し）
- ④乗務員職場（新たなジョブローテーションの実施・自動運転について）

主な発言内容

東労組に加入している理由について ▼やめる必要性を感じない。鉄道が好きで、できれば本体でこの仕事をしていたい。組織強化してたかかっていく。▼この間しっかりと東労組が施策に向き合い交渉してきたことを見てきたから。▼辞めるのが面倒くさい。残っているメリット・デメリット天秤にかけた結果残った。▼色々お世話になった方は東労組の組合員が多い。自分がいるのは組合があったから。抜ける考えはなかった。

組織強化・拡大について ▼心の整理がつかず、職場で活動ができていない。やめた人たちと一緒にやろうとはなれない。▼職場の掲示板に加入の情報を貼って雰囲気づくりをしている。▼新規採用者・未加入者に組合について、社友会の違い等説明した。▼誰でも戻ってきてほしい。ベテランも中堅も、年齢の近い若手も。▼辞めていった人たちも被害者。▼（離脱した仲間や未加入者に対して）労働組合の必要性を理解してもらう必要がある。組合のイメージを変えていく必要がある。年齢の近い人が話をした方が説得力がある。▼戻ってこられる状態づくりが大切。▼職場で過半数割れし職場代表者選挙となったが、組合の立候補者が勝利した。離脱者にも声をかけていく。

組合の必要性について ▼ジョブローテーションで団体交渉の必要性を感じた。▼会社は施策の説明だけ、でも組合はそこに声を出している。▼会社のレクよりも組合のレクの方が楽しいと言われた。

施策・業務問題について ▼駅業務執行体制の再構築について、お客さまが求めていることなのか？結果お客さまにとって不便になっている。不便になった分何か対価があるかと言えば何もない。▼鉄道は、社会的弱者の方々にも目を向けないといけない。▼技術革新ばかり先に行っている。お客さまも追いついていない。▼効率化の言葉をはき違えている。業務量も軽減されるわけではなく、ただコストだけ下がってみんなは大変になっている。▼せっかくの技術革新ももったいない。▼職場にある一部の業務用自動車は中型以上の運転免許が必要。普通免許しか持っていない自分は運転できない。今は資格を持った人がいるから良いがあと2年で退職。今のうちに資格を持った人に教わりたく、自ら教習所に行き自ら受講料を払って免許を取りに行っている。▼会社の意見交換会の中で、ある支社幹部に「社員の幸せとは何か？」と聞いたら「金」と返ってきた。▼団体交渉の議事録を見て、会社と組合の間で言葉のキャッチボールが出来ていない。「サービスレベルの低下」も会社と組合の認識が違う。▼横浜総合事務センターでは昨年約4300人分の年末調整を担当した。用紙の用意や封筒に一枚一枚入れる作業など限られた人数・チームで行うためどうしてもミス（用紙の取り違いなど）が起こる。今年は設備も加わり5000人弱となる。

台風15号について ▼運転再開前、線路状況確認のため初電を運転していた。保線や土木等の専門の社員が添乗していない中で、確認列車を動かして良いのか。▼倒木があっても工具が無いので対応できない。1時間足止めされたところもある。▼車で様子を見に行っただけで運転再開。初電は添乗者も誰もいなかった。行ってみれば案の定タンが落ちていたり、遮断機が壊れていた。運転再開ありき。▼車両運用も乱れ、仕業検査切れが発生しそうな車両を検査しに千葉に行ったが、仕業検査の経験がない人が行っていた。▼台風ではないが9月3日夜のゲリラ豪雨の際列車を運転していて冠水していたところに突っ込んだ。床下機器箱のフタが外れて線路に落ちていた。その際の衝撃もすごく、脱線するのではと思いきや自分自身の感覚で列車を止めた。防護無線自動発報装置は動作しなかった。ドライバレスになったら一体どうになってしまうのかと感じた。

総括答弁

要旨

事務長 森田 隼士



一人も置き去りにしない決意
私たちは、18春闘で大きな過ちを犯しました。組織の信用も信頼も全て失ってしまいました。そのような中で定期委員に会って頂き、職場で奮闘されていることに對して、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちはみなさんの思いを決して無駄にせず、そして二度と同じ過ちを繰り返さないために、「一人の青年部員も置き去りにしない」という強い決意のものと、これからも活動をして参ります。

職場での運動について

情報や新聞、討議資料等を活用しながら、一人ひとりの青年部員と相互議論をしていきます。全青年部員の生の声を聞くためには、青年部リーダーやみなさんの力がどうしても必要です。本部青年部定期委員会でも、まずは決まったことをしっかりと現場の青年部員に明らかにしていくことをみんなで決定してきました。厳しい現実を青年部員に伝えることは、非常に辛いし厳しいと思います。しかし、だからといって、一部だけ伝えて、残りを隠して議論して組織化したとしても、そんなの本当の仲間ではありません。本音でぶつかりあい、本当のことを議論できるのが仲間だと思えます。まずは役員間でも良いし、話しやすい仲間がいるのであればその方でも良いのです。できることから

しかし一歩一歩確実に実践していく事を改めて要請しますし、地本青年部も共に担いますので、ぜひそういった職場での相互議論をお願い致します。

組織強化・拡大について

組織の再建は、組合員「数」が全てではありません。私は18春闘の反省に立ち、組織を再建させ真実もしっかり離脱者に訴えながら、もう一度東労組と一緒にやっていきたいという思いでいます。再加入や未加入者の加入について、私たちは「議論」することからスタートします。一人ひとりが「加入」について、本音の意見を出し合うことから始めていきます。職場の仲間と向き合い、同時に離脱者や未加入者に対しても相互議論をして向き合っていきます。この間も相手にしっかりと向き合い、議論してきたことが再加入という大きな結果に結びついていきます。組織強化も拡大も、相互議論という当たり前のことも、相互議論という重要な運動がやはり大切です。同時にできることです。例えば加入の情報を掲示板に貼る、これも立派な実践です。雰囲気づくも非常に大切なことです。一人ひとりができることをやっていきましょう。

組織破壊に抗するたたかい

このように真面目に、真剣に組織の再建・強化・拡大について取り組んでいる一方で、その

運動を妨害・破壊している人間がいることもまた事実です。18春闘から既に1年半が経過した今もなお、12地本は一体となれていません。非常に悔しい思いでいっぱいです。私たちが求めたのは、18春闘大敗北の押しつけではありません。本音で価値観を出し合うことを求めてきただけなんです。ただそれだけなのに、本音も言わないし、何にも悪い事してないのに運動は破壊され続けました。そういう一部指導者とは共に歩めないということも明確にしておきたいと思えます。

施策について

施策が矢継ぎ早に提案されて現場は追いついていません。それは会社も同じだと思います。職場の説明会で提案内容に質問しても明確な答えが返ってこないとの声もあります。はつきり言って異常だと思えます。施策は、現場の組合員や青年部員が努力して担っています。東労組が施策に対して真剣に議論をしていかなければなりません。今ある課題は、組織的にも業務的にも厳しいけれど、本部青年部や地本青年部、役員だけで解決できることではありません。厳しいのだけれどもこの難局をみんなで乗り越えていきましょう。

横浜地本青年部はその最先頭を担う決意を申し述べ総括答弁とさせていただきます。

お越しいただいた来賓のみなさま

横浜地本
梶田書記長 熊澤組織部長
J R 東労組青年部
武田事務長

第17回定期委員会参加者数

委員 14名 (定数: 15名)
来賓 3名 常任委員 5名
傍聴 18名 合計 40名

退任されました田島さん
1年間お疲れさまでした!!



台風15号による被災した組合員・家族へのカンパ

定期委員会当日にみなさまから頂きましたカンパは

合計で **22,450円** となりました。

ありがとうございました!!

横浜地本青年部が責任を持って千葉地本の仲間届けます!!

2019年度 常任委員会体制

役職	氏名	年齢	職場
青年部長	岡本 洸太	32	相模原運輸区
副部長	小澤 和哉	32	横浜運輸区
副部長	宮本 晃幸	29	鎌倉車両センター
事務長	森田 隼士	29	鎌倉車両センター
常任委員	江村 亜登夢	28	熱海運輸区

あらゆる組織破壊を許さず、一人の青年部員も置き去りにしない!!
一年間、よろしく願いいたします!!